

平成30年度 当初予算（案）

主な事業の説明書

生涯学習部

款	項	目	大	事	業	ページ
10	5	3	16	(新規)	西仙北中央公民館改築事業費	10-1
10	5	3	17	(新規)	清水分館改築事業費	10-2
10	5	5	25	(新規)	(仮称)花火伝統文化継承資料館管理費	10-3
10	5	4	99		子ども読書活動推進事業費	10-4
10	5	5	16		総合市民会館運営費	10-5
10	5	5	17		大仙市音楽祭開催経費	10-7
10	5	6	16		旧池田氏庭園管理費	10-8
10	5	6	27		角間川・川のまち歴史交流の杜整備事業費	10-9
10	6	1	21		全国500歳野球大会関係費	10-10
10	6	2	16	(新規)	その他体育施設改修事業費	10-11
1	1	1	10		スキー場運営費	10-12

※部毎に款・項・目・大事業の順番とする。

事 業 説 明 書

10 款 5 項 3 目 16 事業

(施策の大綱) 行財政運営の効率化

(施策) 公共施設の効率的な運営

(基本事業) 施設の長寿命化の推進

新規

課所名： 生涯学習部 生涯学習課

『事業名』 西仙北中央公民館改築事業費

【30年度】 188,150 千円 【29年度】 千円 【増減額】 188,150 千円

※30年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
		174,500		13,650

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

生涯学習活動や地域活性化活動の拠点施設として市内各地域に公民館が設置されている。利用者が安全・安心に利用できるよう、築年数の古い公民館については公共施設等総合管理計画に基づき改修・改築を検討するとともに、施設の安全面を考えた場合、緊急性の高い案件については修繕等により即時対応し長寿命化を図りながら施設の維持管理に努めることを目的とする。

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

西仙北中央公民館は昭和53年に建築され、築38年が経過している建物である。平成19年度に事務所棟部分、平成28年度に講堂部分の耐震診断を実施し、その結果、耐震補強対策が必要と診断された。西仙北地域内で検討を重ねた結果、築年数も古く補強したとしても、近い将来建替えが懸念されることから、現在地に建替えをすることで事業が進められている。

○平成29年度	地形測量業務委託	1,026千円
	改築工事基本設計業務委託	7,560千円
	解体工事实施設設計業務委託	3,348千円

3. Check (評価：問題と課題)

既存施設は、地域の生涯学習施設の拠点として利用されているが、建替えに向けて、将来を見据えた施設利用者の把握と、施設利用者や地域住民から出された意見・要望を汲み入れた施設となるよう協議を重ねる必要がある。

また、既存施設の解体工事から新公民館の建築工事完了までの期間について、定期的に利用している団体の活動場所となる代替施設の確保や利用調整などが課題とされている。

4. Act (改善：今後の方向性と30年度事業の概要)

公民館は地域の生涯学習の拠点として位置づけられているため、市民が利用しやすく地域活性化に寄与できる施設の有効活用を図らなければならない。

また、図書館の併設はもちろんのこと、「刈和野の大綱引き」に関する綱の作業所や展示場などの施設機能を集約し、新たなる西仙北地域の拠点施設として整備する。

○主な事業計画

平成30年度『既存公民館解体工事』、	工期予定 (H30.6月中旬～H30.12月下旬)
『新公民館建築工事实施設設計業務』、	工期予定 (H30.5月中旬～H31.1月下旬)
平成31年度『新公民館建築工事』、	工期予定 (H31.4月中旬～H32.3月中旬)

○平成30年度事業概要 【当初予算額 188,150千円】

予算項目	事業内容	計
委託料	実施設設計業務、地質調査業務、解体工事監理業務 他	32,462千円
手数料	建築確認申請、省エネ判定、構造計算適合判定	935千円
工事請負費	公民館解体工事、図書館設備改修工事	154,753千円

事 業 説 明 書

10 款 5 項 3 目 17 事業

(施策の大綱) 行政運営の効率化

(施策) 公共施設の効率的な運営

(基本事業) 施設の長寿命化の推進

新規

課所名： 生涯学習部 生涯学習課

『事業名』 **清水分館改築事業費**

【30年度】 245,386 千円 【29年度】 千円 【増減額】 245,386 千円

※30年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
		232,300		13,086

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

生涯学習活動や地域活性化活動の拠点施設として市内各地域に公民館が設置されている。利用者が安全・安心に利用できるよう、築年数の古い公民館については公共施設等総合管理計画に基づき改修・改築を検討するとともに、施設の安全面を考えた場合、緊急性の高い案件については修繕等により即時対応し長寿命化を図りながら施設の維持管理に努めることを目的とする。

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

中仙公民館清水分館は、昭和39年建築の建物で、大仙市内の公民館施設の中では最も古い建物である。これまでも改築の検討がされてきたが、平成27年度内に「清水分館建て替え推進委員会」が設置され、地域の意見を集約・反映させながら平成30年度の建築に向けて協議が進められてきた。

○平成29年度 基本設計業務委託 3,186千円
 地質調査業務委託 1,309千円
 実施設計業務委託 10,476千円

3. Check (評価：問題と課題)

当施設は、清水地区の生涯学習施設の拠点として利用されているが、地区内の避難所指定箇所は清水小学校のみとなっており、過去には緊急的に当施設でも避難者を受け入れたこともあったことから、将来的に避難所としての役割も期待されている。そのため、自主防災組織等を設置するなど管理体制の整備も課題としてあげられている。

4. Act (改善：今後の方向性と30年度事業の概要)

公民館は地域の生涯学習の拠点として位置づけられているが、分館は地域に最も身近な学習施設であると言える。地域における公民館としての位置づけを考えた場合、清水分館が果たす役割として、「地域コミュニティづくりの活動拠点」・「地域の文化活動、社会スポーツ活動」・「行政の末端に位置する施設」の三つがあげられる。

また、清水地区住民の交流の場として利便性の向上や住民サービスの充実を図りながら、新たな交流拠点としての分館運営を目指す。

○計画概要 延べ床面積 629.29㎡ (既存分館の延べ床面積 1,092.24㎡)
 構造規模 鉄骨造 平屋建て (既存分館は木造一部2階建て、体育館は鉄骨)

○事業計画 平成30年度 『清水分館建築工事』、 工期予定 (H30.5月中旬～H31.3月中旬)
 『工事設計監理・工事監理』、 工期予定 (H30.5月中旬～H31.3月下旬)
 『既存分館解体設計業務』、 工期予定 (H30.9月上旬～H30.12月中旬)

○平成30年度事業概要 【当初予算額 245,386千円】

予算項目	事業内容	計
委託料	既存解体実施設計業務、建設工事設計監理、建設工事工事監理	6,468千円
工事請負費	建設工事【建築】、【電気設備】、【機械設備】	238,100千円
その他	手数料、備品購入、消耗品費	818千円

事 業 説 明 書

10 款 5 項 5 目 25 事業

(施策の大綱) 花火産業構想の振興

(施策) 花火産業構想の推進

(基本事業) 花火の文化的価値を高め、
継承し、広く示す拠点づくり

新規

課所名：生涯学習部 生涯学習課

『事業名』 (仮称) 花火伝統文化継承資料館管理費

【30年度】 27,806 千円 【29年度】 0 千円 【増減額】 27,806 千円

※30年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	3,400		148	24,258

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

【目的】

「花火」に関する資料保存を行い、将来にわたる貴重な文化的財産として後世に確実に継承すること、及び、展望・展示スペースに設置する映像シアターや資料展示を通じ、来館者にいつでも花火文化を発信しながら、更なる花火愛好者の増加を促す。

また、旧女性センターと勤労青少年ホームの利用団体の他に、芸術文化や共通の趣味などを通じて人が集い、新たな学習拠点としての組織づくりを支援するとともに、更なる生涯学習活動の振興と地域活性化に寄与することを目指す。

【目標】

○年間来場者 33,000人 (花火資料館利用者)、10,000人 (生涯学習施設利用者)

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

※総合政策課実施事業

○建設事業	規模・構造：鉄骨造4階建て 建築面積：473.78㎡ 延べ床面積：1,661.13㎡
○花火資料の収集	ボランティアグループ「花火伝統文化継承プロジェクト」による、花火関連資料の収集・整理・保存。(H29.10.31現在、13,911点)
○花火資料のデジタル化	平成28年度に花火資料デジタル化システムを導入。
○ホームページの作成	「(仮称)花火伝統文化継承資料館」ホームページ制作業務を委託。

3. Check (評価：問題と課題)

○(仮称)花火伝統文化継承資料館は、現在の産業展示館と一体管理となる施設であるため、今後の展示や管理について、詳細な計画を立てて進める必要がある。

○勤労青少年ホーム解体後は、現在利用している任意団体がスムーズに利用できるよう、説明会や利用調整を定期的に行なう必要がある。

4. Act (改善：今後の方向性と30年度事業の概要)

○平成30年8月開館予定の資料館の実状と実務に合わせた運営体制を確立。

○資料の収集活動及びデジタル化の継続実施。

○開館に向けたPRと誘客PRを、ホームページやSNS等により実施。

○記念展示を含めた企画展示の他、花火資料の収集や貸し館事業運営に係わる「運営委員会」の開催。

【平成30年度経費】 当初予算額 27,806千円

項目	費用	内容
社会保険料	1,050千円	嘱託職員社会保険料
賃 金	6,384千円	嘱託職員4名賃金
電 気 料	5,921千円	花火資料館電気料
消耗品費等	1,366千円	コピーパフォーマンス料、展示替え消耗品 等
委 託 料	7,525千円	清掃業務、エレベータ保守点検、消防用設備等点検 等
工事請負費	2,298千円	電話線配線工事、LANケーブル配線工事
負 担 金	1,058千円	花火伝統文化継承プロジェクトに対する負担金
そ の 他	2,204千円	水道料、燃料費、電話料、コピー機リース料 等

事業説明書

10 款 5 項 4 目 99 事業

(施策の大綱)生涯学習の推進

(施策)生涯学習の推進

(基本事業)「大仙市親と子の夢を育む読書活動推進計画」に基づいた読書推進事業の実施

継続

課所名：生涯学習部生涯学習課 総合図書館

『事業名』 子ども読書活動推進事業費

【30年度】 5,699 千円 【29年度】 6,133 千円 【増減額】 △ 434 千円

※30年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	150			5,549

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

第2次親と子の夢を育む読書活動推進計画に基づき、読書の大切さを理解し、生涯にわたって読書する習慣を培うことを目標とする。

本事業の特に、子どもの読書習慣づくりへの支援である読書支援サポーターの活動回数を目標値とする。
 サポーター活動回数 年間 1,000回 (小・中学校32校×月2～3回×12ヶ月)

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

■ブックスタート事業

4ヶ月児健診時に、赤ちゃんと保護者を対象に、絵本を介した心のふれあうきっかけづくりを実施しており、好評を得ている。

実績年度	H25	H26	H27	H28
配付人数	530	488	521	480

■子ども読書支援サポーター配置事業

・司書資格のあるサポーター3名を大曲、東部、西部の3地域に配置し、学校図書 of 整備や修理、読み聞かせ等を行い、子どもの読書習慣づくりへの支援を実施している。

・すべての小・中学校から図書館環境の改善、読書意欲の向上が図られていると好評を博している。

実績年度	H26	H27	H28	平均
32校サポーター年間巡回回数(3名)	918	945	870	911
1校の1ヵ月当り巡回回数	2.4	2.5	2.3	2.4

■だいせん読書の日における読書活動の推進

11月の第1木曜日のだいせん読書の日に、読書の楽しさを味わえる展示やイベントを行い、読書活動を推進する。大曲図書館では健康相談、ハーブティー講座、ONE BOX LIBRARY (不要本リサイクル)等に1,314人の来館があり好評だった。

3. Check (評価：問題と課題)

本市の読書支援サポーターは、授業で使う資料の提供や図書購入時の選書の支援などを行っている。学校からは、これ以外にも多岐にわたる要望も多く、週1度の巡回希望も多数出されている。現在のサポート体制では、これらの要望に応えきれない状況である。サポーターの増員も含め支援体制の見直しが必要である。

4. Act (改善：今後の方向性と30年度事業の概要)

- ・ブックスタート事業では、本年度も地域で健診を受ける子どもにブックスタートセットを手渡す予定である。
- ・子どもの読書活動を推進する読書支援サポーターについて、課題の改善を含めた適切なサポート体制の構築を図る。
- ・企業や地域人材を活用した「だいせん読書の日」や読書活動推進パートナー支援(県)事業を推進する。

事 業 説 明 書

10 款 5 項 5 目 16 事業

(施策の大綱) 芸術・文化の振興

(施策) 芸術・文化の振興

(基本事業) 芸術文化鑑賞・体験機会の創出

継続

課所名：生涯学習部生涯学習課総合市民会館

『事業名』 総合市民会館運営費

【30年度】 31,926 千円 【29年度】 43,888 千円 【増減額】 △ 11,962 千円

※30年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			15,272	16,654

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

- 目的：優れた文化芸術を市内4市民会館で身近に鑑賞する機会を提供し、市民の芸術文化意識の向上と地域の文化振興発展を目的とする。
- 目標：事業費に占める入場料収入の割合（収支比率）は、4館平均で50%を目標とする。

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

公演の企画立案は、市民と行政とが協働で行っており、市民の幅広いニーズに対応した公演は、多くの市民に満足いただいている。

4館の特性や地域性を考慮した多彩なジャンルの公演を分担して実施しており、事業費に占める入場料収入（収支比率）は4館平均で50%程度で推移している。

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
4館平均収支比率	42%	43%	55%	45%	48%

3. Check (評価：問題と課題)

今後の課題としては、入場者数を増やし入場料収入の増加に努めるとともに、各種助成制度の活用、共催事業による公演開催などにより、一般財源からの支出をできる限り削減する必要がある。

4. Act (改善：今後の方向性と30年度事業の概要)

自衛隊音楽隊、クラシック音楽、ポップス、民俗芸能、能など多彩なジャンルの公演を今後も市民に提供していきたい。

30年度は、子ども向け公開番組や宝くじ文化事業へ応募し、一般財源からの支出を抑えつつも、多くの市民に楽しんでいただくことのできる事業開催を予定している。また、大仙市にゆかりのある若手ミュージシャンの活動を応援するコンサート、クリスマスには市民によるオペラ公演など4館が特色ある自主事業の開催を予定している。

区 分	事業費 (千円)	入場料等収入 (千円)	一般財源 (千円)	収支比率
大曲市民会館 (5事業)	15,654	8,551	7,103	55%
中仙市民会館 (4事業)	5,890	2,703	3,187	46%
協和市民センター (3事業)	8,247	3,475	4,772	42%
仙北ふれあい文化センター (2事業)	2,135	543	1,592	25%
合 計	31,926	15,272	16,654	48%

(収支比率は入場料等収入／事業費で算出)

今後は限られた予算の中で幅広い市民の意見を取り入れ楽しんでいただくことを心掛けつつ、これまで以上に助成制度や共催事業を開催するなどして、一般財源の削減に努めていきたい。

30年度 4館自主事業公演(案)

2018/2/2

	事業名	実施年月日	公演形態	入場料金	入場者数	事業費	入場料収入	一般財源	
				(前売り)円					人
大曲市民会館	1 ポップス系コンサート(ゴスペラーズ)	11月~12月	自主	全席指定 6,500円	900	9,113	5,850	3,263	
	2 子ども向け公開番組「みんなDEどーもくん！」	4月29日(日)	共催	入場無料	900	529	0	529	
	3 佐藤卓史ピアノ・リサイタル(仮称)	12月1日(土)	自主	全席指定 2,000円	400	1,067	800	267	
	4 大仙市にゆかりのある若手歌手コンサート(仮称)	5月下旬	自主	全席自由 1,000円	400	1,800	400	1,400	
	5 オペラ「市民によるクリスマスコンサート」	12月23日(日)	共催	全席自由 一般2,000円 学生1,000円	800	3,145	1,500	1,645	
				その他歳入 チケット販売手数料				1	
					H30年度予算	15,654	8,551	7,103	
					H29年度予算	18,717	14,719	3,998	
中仙市民会館	1 自衛隊音楽隊コンサート	10月(予定)	自主	入場無料		529	0	529	
	2 原田真二、尾崎亜美、南佳孝ジョイントコンサート(ポップス)	未定	自主	全席指定 S席 5,000円 A席 4,500円 学生 2,000円	480	4,327	2,235	2,092	
	3 (ファミリーコンサート)「オーケストラで聴くジブリ音楽」(平成30年度宝くじ文化公演事業)	12月9日(日)	自主	全席自由 一般2,000円 学生1,000円	467	790	367	423	
	4 優秀映画鑑賞会(映画)	未定	自主	全席自由 1日券 500円 2日通し券 800円	200	244	100	144	
				その他歳入 チケット販売手数料				1	
						H30年度予算	5,890	2,703	3,187
					H29年度予算	10,158	5,271	4,887	
協和市民センター	1 自衛隊音楽隊コンサート	8月上旬	自主	入場無料		522	0	522	
	2 芸人と兵隊(演劇)	H31.2月中旬	自主	全席指定 4,500円	450	3,367	2,025	1,342	
	3 定期能公演(観世流)	9月1日(土)	自主	全席指定 S席 6,000円 A席 5,000円	250	4,358	1,450	2,908	
				その他歳入 チケット販売手数料					
						H30年度予算	8,247	3,475	4,772
						H29年度予算	12,475	5,260	7,215
ふれあい文化センター	1 自衛隊音楽隊コンサート	未定	自主	入場無料		500	0	500	
	2 民俗芸能フェスティバル	11月	自主	全席自由 前売り 1,000円 当日券 1,200円	521	1,635	523	1,112	
				その他歳入 チケット販売手数料				20	
						H30年度予算	2,135	543	1,592
						H29年度予算	2,538	980	1,558
4館計						H30年度予算合計	31,926	15,272	16,654
						H29年度予算合計	43,888	26,230	17,658

事 業 説 明 書

10 款 5 項 5 目 17 事業

(施策の大綱) 芸術・文化の振興

(施策) 芸術・文化の振興

(基本事業) 芸術文化鑑賞・体験機会の創出

継続

課所名：生涯学習部生涯学習課総合市民会館

『事業名』 **大仙市音楽祭開催経費**

【30年度】 **8,094 千円** 【29年度】 **18,754 千円** 【増減額】 **△ 10,660 千円**

※30年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			1,500	6,594

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

- 目的：「音楽のまち大仙」として長年にわたり育んできた伝統と財産を、市民により身近なものとするため、「みんなでつくる みんなで楽しむ みんなの音楽祭」をコンセプトとした市民参加型音楽祭を開催して、音楽に触れ合うことのできる機会を提供する。
- 目標：29年度よりも、地元で活躍している吹奏楽団体や合唱団体などの参加を重視した音楽祭開催を目標とする。

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

29年度から新たに開催した「大仙市音楽祭」は3日間で延べ4,000名の方に鑑賞いただいた。有料公演のアンケートでは回答があった方のほとんどが「非常によかった」「よかった」との回答であった。

●入場者数

※有料公演

11月3日 (金・祝)		11月4日 (土)		11月5日 (日)	
※0歳からのオーケストラ	473名	中学生のためのオーケストラ	1,963名	地元吹奏楽4団体	296名
ホールコンサート	28名	大曲中学校コンサート	216名	※市民のためのオーケストラ	524名
薦パレミ公演	160名				
楽器演奏クリニック	77名				

3. Check (評価：問題と課題)

29年度は「大仙市音楽祭」スタートの年であったため、仙台クラシックフェスティバルの運営ノウハウを持っている仙台フィルハーモニー管弦楽団に協力をいただき開催したが、開催日程や公演内容については見直しが必要である。

市民の意見を取り入れながら、徐々に「大仙市音楽祭」のスタイルを創り上げていかななくてはならないと考えている。

4. Act (改善：今後の方向性と30年度事業の概要)

今後は地元吹奏楽団体などが主体となって開催する音楽祭にしたいと考えている。

29年度好評で、今後もぜひ開催して欲しいとの要望が強かった楽器体験コーナーと未就学児向けのオーケストラコンサート、一般向けオーケストラコンサートは、30年度も継続して開催を予定している。

■11月10日 (土) 【1日目】

※山形交響楽団へ委託による公演

地元団体公演①	大仙市や近隣の市町で活動をしている地元音楽団体による演奏。
※一般向けコンサート	クラシック音楽をより多くの市民に楽しんでもらうための一般向けオーケストラコンサート。

■11月11日 (日) 【2日目】

楽器体験コーナー	子ども達やその家族が本物の楽器に直接触れてみることのできる体験企画。
※親子ふれあいコンサート	未就学児が音楽の楽しさを家族と一緒に感じることのできる親子向けオーケストラコンサート。
楽器演奏クリニック	吹奏楽に携わっている生徒がプロの演奏家から基本奏法などのレッスンを受講し、演奏技術を高めてもらう講習会。
地元団体公演②	大仙市や近隣の市町で活動をしている地元音楽団体による演奏。

事 業 説 明 書

10 款 5 項 6 目 16 事業

(施策の大綱) 芸術・文化の振興

(施策) 文化財の保存、整備、活用の推進

(基本事業) 文化財を活用した地域づくり

継続

課所名： 生涯学習部 文化財保護課

『事業名』 旧池田氏庭園管理費

【30年度】 18,939 千円 【29年度】 16,543 千円 【増減額】 2,396 千円

※30年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			6,491	12,448

※入園料 6,400千円

※パンフ 80千円他

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標) 国指定名勝「旧池田氏庭園」の景観を維持しつつ、地域に貢献を続ける池田家の功績を顕彰するとともに、公開体制を整備し、文化財を活用した交流人口の拡大と地域活性化を推進する。

○目標数値：平成37年度末 年間来園者25,000人(第2次大仙市総合計画基本構想)

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

○平成19年以降の来園者数 (単位：人)

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	合計
来園者数	10,367	8,692	10,960	10,635	23,983	21,931	23,634	22,783	16,732	11,402	12,760	173,879

- ・ガイダンス施設及び受付所の整備を平成26年度に完了。(公開活用のための全体的な便益施設)
- ・公開活用施設整備の完成を受けて、平成27年4月より設置条例を施行し、公開活用の体制を整えた。
- ・ガイドを含めた公開活用関係の管理業務を、平成27年度から池田家顕彰会へ業務委託を開始した。
- ・初夏、夏季、秋季一般公開、計56日(平成29年度)で年間1万2千人超の来園者を数えており、市内の文化的観光施設としては多くの来園者が訪れている。

3. C h e c k (評価：問題と課題)

- ・観光事業者等から公開期間の拡大要望が多数寄せられている。
- ・常時公開ではないため、道路等の案内看板が常設できない状態である。
- ・公開活用業務委託先である池田家顕彰会をはじめ、観光物産協会等と、今後公開活用についての広域的な連携体制、催事等の周知広報の一本化などの体制を整備・構築する必要がある。

4. A c t (改善：今後の方向性と30年度事業の概要)

○公開期間及び料金の見直し

年 度	現 状 (～H29)		変 更 後 (H30～)								
期 間	期間限定公開56日間 (初夏・夏季・秋季) 顕彰会ガイド有	➔	常時公開158日間 (5/19～11/18) ※月曜日休園 うち特別公開49日間(初夏・夏季・秋季)顕彰会ガイド有 特別公開時はガイド付きで洋館2階が見学可能。								
入園料	一 般 (高校生以下無料) 320円		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>一般 (高校生以下無料)</td> <td style="text-align: right;">300円</td> </tr> <tr> <td>洋館2階見学 (高校生以下無料)</td> <td style="text-align: right;">200円</td> </tr> <tr> <td>団体 (20人以上)</td> <td style="text-align: right;">240円</td> </tr> <tr> <td>年間パスポート</td> <td style="text-align: right;">700円</td> </tr> </table>	一般 (高校生以下無料)	300円	洋館2階見学 (高校生以下無料)	200円	団体 (20人以上)	240円	年間パスポート	700円
一般 (高校生以下無料)	300円										
洋館2階見学 (高校生以下無料)	200円										
団体 (20人以上)	240円										
年間パスポート	700円										

※洋館については、日中の警備保障の導入、公開期間拡大による1日当たり来園者数の減を見込み、駐車場整理員等を縮減するなどのコスト削減を図る。

○国重要文化財に指定された(平成29年11月28日指定)旧池田家住宅洋館の記念事業を開催する。

(開催時期) 秋季特別公開時を予定

(事業内容) 記念講演、祝賀会、企画展「金唐草紙と製造実演」等

事 業 説 明 書

10 款 5 項 6 目 27 事業

(施策の大綱) 芸術・文化の振興

(施策) 文化財の保存、整備、活用の推進

(基本事業) 文化財を活用した地域づくり

継続

課所名： 生涯学習部 文化財保護課

『事業名』 角間川・川のまち歴史交流の杜整備事業費

【30年度】 102,170 千円 【29年度】 73,972 千円 【増減額】 28,198 千円

※30年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
19,586		63,000	4,000	15,584

※教育文化基金

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

東北地方を代表する雄物川舟運の歴史を伝える「角間川の旧家群」を活用し、地域の歴史と交流をキーワードとした地域活性化拠点エリアを整備する。
 国登録文化財の本郷家住宅をはじめとした秀逸な近代建造物群を周知し、エリア内へ案内所等の便益施設を計画的に整備しながら、地域文化向上と広域的な文化財活用型観光交流を推進する。

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

平成29年3月「河港のまち角間川・歴史まちづくり基本計画」策定。
 平成29年度に三家の敷地・建造物の公有化を完了した。旧本郷家住宅については、最低限の生活痕改修を施した上で、10月に2日間の特別公開を開催し、約950人が来館した。

年度	H28	H29
実績	基本計画策定 荒川家：土地・建物公有化	本郷家：土地・建物公有化、生活痕改修 北島家：土地・建物公有化
成果	地域住民団体が町を盛り上げる活動が活発化	本郷家特別公開来館者950人

3. Check (評価：問題と課題)

- ・三家それぞれの住宅や内蔵の公開要望が多いため、トイレ等の便益施設を早急に整備する必要がある。
- ・建造物群の老朽化が進んでおり、安全確保の観点から早急に改修する必要がある。
- ・建造物の文化的な価値を残したまま公開するためには、市の文化財に指定した上で用途変更する必要がある。
- ・内蔵の収蔵資料を整理するマンパワーが不足しており、すべてを公開するまでには時間を要する。

4. Act (改善：今後の方向性と平成30年度事業の概要)

【今後の方向性】

事業期間：【前期計画】平成28～32年度・・・保存整備・公開準備（ハード整備）
 【後期 II】平成33～37年度・・・公開と組織整備（ソフト事業）

(単位：千円)

年度	項目	H30	H31～32	H33～H37
主な 事業 内容	設計監理	工事設計監理 4,939	工事設計監理 500	公開体制の組織整備 活用計画策定 1,000 指定管理の導入準備
	荒川家	大規模改修・減築 83,308	外構工事 20,000	
	北島家	調査	部分改修、用途変更 10,757	
	本郷家	部分改修、展示製作 4,637	部分改修、用途変更 2,000	
	三家	庭園整備、庭園調査 3,843	庭園整備 1,000	

【平成30年度事業概要】

(単位：千円)

項目	実施内容	事業費	国補助
荒川家改修	主屋改修（受付・トイレ）、内蔵修理、味噌蔵等解体、設計監理	86,793	19,586
本郷家改修	公開用畳等修繕、管理用電気設備設置	3,600	-
その他	三家庭園整備、建物・庭園調査、維持管理、特別公開管理等	11,777	-
	合計	102,170	19,586

事 業 説 明 書

10 款 6 項 1 目 21 事業

(施策の大綱) スポーツの推進

(施策) スポーツ機会の拡大と環境の整備

(基本事業) スポーツによる地域の活性化

継続

課所名：生涯学習部 スポーツ振興課

『事業名』 全国500歳野球大会関係費

【30年度】 5,800 千円 【29年度】 6,400 千円 【増減額】 △ 600 千円

※30年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			5,800	0

1. Plan (計画：事業の目的及び目標) 地域振興基金繰入金 他

平成29年7月に「第1回全国500歳野球大会」を32チームが参加して行われた。「野球に燃える親父たちの甲子園」のキャッチフレーズのもと、高齢者が野球を楽しみながら健康づくりを行うことをモットーに、500歳野球の全国大会を継続して展開する。生涯スポーツとしての野球を楽しみながら、長寿社会の形成に資することを目的とし、併せて地域知名度の向上と観光宣伝及び特産品PRを通じて地域の活性化を図る。

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

【平成28年度全国500歳野球大会】

期	日	平成28年7月16日(土)～18日(月)
会	場	大仙市総合公園野球場(主会場)、神岡野球場、仙北球場(全3会場)
出	場	チーム 13チーム(県外からは交流都市を含む、1都5県9チーム、約200人が参加)

【平成29年度第1回全国500歳野球大会】

期	日	平成29年7月15日(土)～17日(月)
会	場	大仙市総合公園野球場(主会場)、神岡野球場、八乙女球場、協和野球場、太田球場、仙北球場(全6会場)
出	場	チーム 32チーム(県外からは交流都市を含む、1都10県18チーム、約400人が参加)

3. Check (評価：問題と課題)

全国500歳野球大会開催にあたり、全都道府県からの参加を目標としているが、当面は国内八地方からの出場チームを確保したい。50歳代野球は全国的な組織が確立していないため、各地域でそれぞれの組織が独自の大会を実施しているのが現状であり、今後は大会の情報提供をいかに幅広く発信していけるかが課題である。

4. Act (改善：今後の方向性と30年度事業の概要)

全国大会は中高齢者が生涯スポーツとしての野球を楽しみながら、開催地周辺の観光や物産を融合させる「大仙市版スポーツツーリズム」として取り組むことを継承し、小中学生や企業等、市民が一体となってホスピタリティに取り組む事業とする。

【平成30年度第2回全国500歳野球大会】

期	日	平成30年7月14日(土)～16日(月)			
会	場	大仙市総合公園野球場(主会場)、神岡野球場、八乙女球場、協和野球場、太田球場、仙北球場(全6会場)			
出	場	チーム 32チーム(県外20チーム以上、国内八地方からの出場チームを確保する)			
試	合	数 本戦トーナメント31試合と1回戦敗退チーム(県外チーム対象)による交流戦			
観	光・物産	大会前日歓迎レセプション後に花火の打ち上げ、特産品の注文販売、特製オリジナルおもてなし			
お	も	て	な	し	大会前日歓迎レセプション後に花火の打ち上げ、特産品の注文販売、特製オリジナルおもてなし 弁当販売、宿泊先については市内温泉施設を優先的に配宿

スポーツによって全国各地の方々との交流人口が増加することで、まちのにぎわいが創出され、観光・商業の活性化などの経済効果に繋がるほか、全国大会を機に本市を訪れたの方々から、「もう一度行きたい500歳野球のまち 大仙市」として本市の魅力を全国に発信する。

事 業 説 明 書

10 款 6 項 2 目 16 事業

(施策の大綱) スポーツの推進

(施策) スポーツ機会の拡大と環境の整備

(基本事業) スポーツ施設の整備充実

新規

課所名：生涯学習部 スポーツ振興課

『事業名』 **その他体育施設改修事業費**

【30年度】 69,990 千円 【29年度】 0 千円 【増減額】 69,990 千円

※30年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
		66,200		3,790

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

大曲武道館は市内中心部に位置していることから、連日、スポーツ少年団、高校の部活動、一般の団体まで幅広く利用されている。

利用者が安全で楽しくスポーツに親しめる環境を維持するため、新耐震基準に対応した施設の改築事業を推進することによって、市民の健康増進と交流の場を提供し、更なるスポーツ人口の拡大やスポーツ振興の発展に寄与する。

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

耐震診断の結果を受け、今後の改築事業実施についての要望や方針策定等について、定期利用団体（平成29年度定期利用団体：14団体）に対し事業説明会を実施し検討した。

● 既存武道館について

- ・ 建築年度 昭和54年
- ・ 構造、規模 鉄骨造 地上2階建 延べ床面積：789.0㎡ 解体対象面積：834.0㎡

【改築工事関係事業費】

(千円)

【利用者数】

(人)

年度	実施内容	経 費
H23	耐震診断他実施	1,696
H27	改築工事基本設計業務	3,856
H29	既存解体工事实施設設計業務	1,577

年度	利用者数
H26	17,111
H27	15,880
H28	15,280

3. Check (評価：問題と課題)

既存施設の解体工事から新武道館の建築工事完了までの期間について、定期的に利用している団体の活動場所の確保や既存事業等の会場変更について調整する。

隣接する大曲体育館並びに市庁舎利用者の駐車場確保並びに工事期間中の安全確保の徹底に努める。

4. Act (改善：今後の方向性と30年度事業の概要)

● 平成31年度実施予定の新武道館建築に向け、建築工事实施設設計業務と解体工事を行う。

手 数 料	245	建築確認申請、構造計算適合性判定
委 託 料	19,745	既存解体設計監理、工事監理業務、改築工事实施設設計業務 他
工 事 請 負 費	50,000	既存解体工事費（工期：約4ヶ月）
合計（当初予算額）	69,990	

- 大曲武道館の活用は、定期利用団体による活動だけでなく、市事業（花火大会、選挙、スポーツ宿泊等）やプロスポーツ等のビッグイベント時には大曲体育館と併用し、サブアリーナとしての役目を果たす機能を備えている。改築後には、本市屋内スポーツ施設の拠点として、様々な事業分野にも対応出来る施設としての期待が持たれる。

事 業 説 明 書

スキー場事業特別会計

1 款 1 項 1 目 10 事業

(施策の大綱) スポーツの推進

(施策) スポーツ機会の拡大と環境の整備

(基本事業) スポーツ施設の整備充実

継続

課所名：生涯学習部 スポーツ振興課

『事業名』 **スキー場運営費**

【30年度】 **74,428 千円** 【29年度】 **60,353 千円** 【増減額】 **14,075 千円**

※30年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
		34,500	66	39,862

1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

豊かな冬の特典を活かし、市民及び誰もが個々の年齢や健康・技術に合わせて気軽に主体的・継続的に楽しめる生涯スポーツの場を提供する。地域が持つ豊かな資源及び自然環境を最大限に活用し、地域経済の活性化、冬季スポーツの充実、市民の健康増進などに資する。

2. Do (実行：これまでの実績と成果)

指定管理者によるスキー場運営によって、各スキー場がそれぞれの立地条件や施設設備等を最大限活用し、スキー場利用者の集客率向上に努めている。施設の維持管理は、現状維持を基本としながらも「安全・安心」の徹底と利用者ニーズへの迅速な対応を第一としている。

●市内スキー場利用客数 (過去3年間) (人)

年度	大曲	協和	大台	合計
H28	7,126	20,921	18,091	46,138
H27	8,509	21,781	18,560	48,850
H26	9,955	35,603	26,371	71,929

●市内スキー場修繕費、工事費実績 (過去3年間) (金額：千円)

年度	大曲		協和		大台		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
H28	7	4,412	4	7,880	1	6,210	12	18,502
H27	4	3,817	1	850	4	6,695	9	11,362
H26	7	3,527	7	9,575	6	7,777	20	20,879

3. Check (評価：問題と課題)

スキー場施設並びに索道施設、ゲレンデ整備車等の老朽化により、維持補修費は増加傾向である。また、暖冬(H27～28)の影響による積雪不足等で各スキー場の通常営業日数が不足した場合の収入減は、経営全体に甚大な影響を与えることとなる。収入減の影響を最小限に抑えるため、運営経費節約等の対策も考慮する。リフト運転に当たっては、常に安全・安心を最優先に考え、事故や災害等の緊急事態が発生した場合には、適切な対応が出来る体制を整備し、健全で喜ばれるスキー場運営を目指したい。

4. Act (改善：今後の方向性と30年度事業の概要)

各スキー場は、レンタル用品や売店、レストラン等の内容も充実しており、リフト券の販売に関しても多様な時間・料金設定を行うなど、利用者ニーズに対応している。今後も指定管理者による民間のノウハウを活かした効率の良い事業効果が期待できる。

【平成30年度 各スキー場事業費】 (千円)

スキー場名	修繕料	委託料 (指定管理料等)	工事費	その他	合計
大曲スキー場	200	9,205	5,384	488	15,277
協和スキー場	1,634	782	33,750	6,236	42,402
大台スキー場	5,153	5,882	4,968	746	16,749

※主な事業等

- 大曲：リフト索受装置整備工事3,456千円、握索装置交換工事1,928千円
- 協和：受電キュービクル改修工事34,532千円 (工事費33,750千円、設計・工事監理782千円)
- 大台：ゲレンデ整備車修繕(2台) 4,829千円、リフト線路受圧索機整備工事4,968千円